

基本目標3 交流人口の取り込み

【政策テーマ】

人口減少・超高齢社会における市内需要の減少局面下にあっても、着地型観光の創出や地域振興施設の整備・誘導等により、交流人口による外部需要を取り込み、市内の持続的な経済好循環モデル（産業振興、雇用創出、市税確保）の構築を目指します。

数値目標

指標	基準値	目標値	実績値
着地型観光事業への年間参加者数	【H26】 93,100人	156,900人	【R1】 189,947人

効果検証委員会による評価

【総括評価】

基本目標3の各戦略目標に係る市の1次評価は、概ね妥当と判断する。
基本目標及び各戦略目標に対し、別途意見を付し、効果検証委員会としての評価とする。

【基本目標への意見】

道の駅、ロケを含めた観光・商業振興について、市としてどういったものを目指していくのかというコンセプトが明確になっていない印象を受ける。関係者と同じ方向を見ながら協力していく体制を構築しつつ、綾瀬の特長を生かした展開をしていただきたい。

戦略目標①「道の駅」の整備

【基本的な方向】

○綾瀬スマートインターチェンジ設置による地域経済効果をより高めるため、農畜産物や加工品の販売、地場産物を活かした飲食サービスの提供等により本市の魅力を発信し、市外からの交流人口の確保や地域経済の活性化につながる「道の駅」の整備に向けた調整を進めてまいります。

【これまでの主な取り組みと成果】

◆「道の駅」の整備に向けた調整

⇒計画地の取得に向け、土地の測量・鑑定を行ったほか、敷地や建物等の調査を実施することにより、補償費用を算定し、地権者との調整が進んだ。

《交渉を進めている地権者数：15名》

⇒施設整備に伴い想定される施設周辺の道路における渋滞や交通安全の観点を踏まえた、交通管理者との調整が進んだ。

《県警協議：H30 1回、R1 2回》

⇒用地取得及び工事等に係る支出の財源獲得に向けた国との調整が進んだ。

《R2 用地取得（防衛省）、R3以降 工事（防衛省、内閣府）》

KPI		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
「道の駅」の整備に向けた調整	目標値	検討	基本計画等策定	設計	用地買収整備	-----▶
	実績値	検討	基本計画等策定	測量・検討調査業務委託	公募準備交通分析	補償費算定 交通協議
	達成状況	○	○	△	△	×

市による一次評価

総合分析 (平成27年～ 令和元年)	<p>(評価結果)さらなる取り組み又は改善が必要。</p> <p>県警協議や財源確保に向けた調整に時間を要し、整備に向けては当初スケジュールから遅れが生じております。</p> <p>施設整備に加え、地域経済効果を高めるための、本市の魅力発信、交流人口の確保、地域経済の活性化に向けた取り組み（仕組み・体制づくり等）の検討・調整を進める必要があります。</p>
--------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

効果検証委員会による二次評価

- ・道の駅の設置は、綾瀬市の知名度を向上させ、様々な地域振興にもつながるものとして非常に期待できる。行政や関係者が連携し、良い形に実現していただきたい。
- ・農業だけでなく工業や商業など、綾瀬市の特徴づけや、総合的な魅力を打ち出せる施設を目指していただきたい。
- ・近隣市との連携を上手く生かすことも検討し、魅力的な道の駅となるよう、コンセプトを明確にしながら、確実に成功させる必要がある。

戦略目標② 着地型観光の創出と商業の活性化

【基本的な方向】

- 交流人口を増やす前提として、綾瀬市の知名度が低いため、まずはその存在を知ってもらうシティセールスに向けた取り組みを充実強化します。
- 綾瀬ならではの魅力の発掘・ブラッシュアップ・連携等により、地域自らの企画とおもてなしで来訪者を集める着地型観光を創出し、交流人口の獲得を目指します。
- 魅力的な店舗や商品づくりを促進するとともに、消防庁舎跡地を有効活用し、商業中心核への新たな民間企業の誘導等を行い、商業機能の強化を図ります。

【これまでの主な取り組みと成果】

◆シティセールスの充実強化

⇒シティセールス横断幕の設置・継続、PR動画の作成、綾瀬市活性化応援寄附金などの取り組みを行い、綾瀬市の知名度の向上につながった。

《自治体認知度全国ランキング：520位(H26)→449位(R1)》

◆着地型観光の創出

⇒ABF、ロケ地ツアー、バスツアー等の様々な観光事業を創設・開催し、交流人口が増加した。

《着地型観光の通算事業数(H27-R1)：16件》

⇒特色ある公園づくりとして、蟹ヶ谷公園の桜植栽を行い、公園の魅力の向上が進んだ。また、光綾公園の再整備については、R6年度完成に向け、野球場の撤去が完了した。

《蟹ヶ谷公園の桜植栽(H27-R1)：121本 ※R2に21本植栽し完成予定》

⇒あやせ目久尻川歴史文化ゾーン構想を策定し、地域との調整を重ねることで、意識啓発が進んだとともに、みはらし広場への案内看板設置により、歴史文化ゾーンとしての活用に着手した。

◆市内商業の活性化支援

⇒商品開発・普及への支援を行い、魅力的な商品による本市商業の発展が進んだ。

《グルメ・特産品の開発と普及支援店舗数(H28-R1)：13件》

⇒「外国人材の受け入れ、活躍に向けた支援」は、基本目標2 戦略目標③に記載。

KPI		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
民間調査機関による自治体認知度全国ランキング	目標値	476位以内	432位以内	388位以内	344位以内	300位以内
	実績値	493位	511位	554位	535位	449位
	達成状況	×	×	×	×	×
着地型観光の事業数(通算事業数)	目標値	8件	12件	13件	14件	15件
	実績値	8件	12件	13件	14件	16件
	達成状況	○	○	○	○	○
観光まちづくり組織を設置	目標値	準備委員会発足	組織案政策	準備会立ち上げ	設置	-----▶
	実績値	準備委員会発足	組織案政策	準備会立ち上げ	休止	休止
	達成状況	○	○	○	△	△
購買力指数	目標値	0.79	0.8	0.82	0.83	0.85
	実績値	未公表	未公表	未公表	未公表	未公表
	達成状況	—	—	—	—	—

グルメ・特産品の開発と普及支援店舗数	目標値	—	2件	5件	8件	8件
	実績値	—	4件	10件	12件	13件
	達成状況	—	○	○	○	○

市による一次評価

総合分析 (平成27年～ 令和元年)	(評価結果)概ね成果につなげることができた。
	<p>シティセールス横断幕の設置が話題を呼んだほか、活性化応援寄附金に多額の寄附を集めるなど、一定の成果は上げていますが、目に見えた認知の向上にはつながらず、新たな取り組みが必要です。</p> <p>観光まちづくり組織の設置には至りませんでした。数多くの着地型観光事業を実施し、交流人口の増加が図れました。</p> <p>とんすきメンチをはじめとする魅力的な店舗や商品づくりが進み、本市商業の発展が進みました。</p>

効果検証委員会による二次評価

<ul style="list-style-type: none"> ・ロケを売りにしている自治体が非常に増えているなか、今のやり方では観光で綾瀬市に人を呼べるとは思えない。続けるのであれば、次のステップに進んだ手法を考える必要がある。 ・行政と市民では、得意分野やできることに違いがある。全て行政で決めるのではなく、しっかりと話し合いながらアイデアを集め、一体的に進めていく機会の創出や、手法を検討していただきたい。 ・定住者の住環境の評価も重要であり、知名度向上とともに住みやすさや子育て環境の良さ等も併せて考える必要がある。 ・綾瀬市には「観光」という言葉が馴染んでいない。いわゆる「観光地」を目指すのではなく、「観光」に代わる新たな言葉・概念のもと、綾瀬の良さを打ち出していく手法を検討されたい。

基本目標4 人口減少・超高齢社会に対応したまちづくり

【政策テーマ】

人口減少・超高齢社会にあっても、住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を継続できるような地域包括ケアシステムの構築と健康寿命の延伸を目指した取り組みに加え、公共施設の適正な維持・管理や、公共交通の利便性の向上を図り、市民がいつまでも住み続けたいと感じ、人口の流出抑制につながるようなまちづくりを推進します。

数値目標

指標	基準値	目標値	実績値
介護認定率	【H26】 12.13%	15%未満	【R1】 14.69%

効果検証委員会による評価

【総括評価】

基本目標4の各戦略目標に係る市の1次評価は、概ね妥当と判断する。
基本目標及び各戦略目標に対し、別途意見を付し、効果検証委員会としての評価とする。

【基本目標への意見】

高齢者だけの世帯や高齢者の単身世帯が増えている一方、地域のネットワークによる支え合いの体制が弱まっている。介護ニーズの急増するなか、今の近隣の支え合いの体制がどこまで機能するか試される時がきており、状況を注視しつつ、しっかりと対応を図られたい。

2030年頃に東京圏郊外地域では空き家発生数のピークが予想されており、住宅市場にどのように結びつけ、解消につなげていくか、トライ&エラーを続けながら対策を進めていただきたい。

戦略目標① 超高齢社会に対応した地域包括ケアシステムの構築

【基本的な方向】

○高齢になっても、住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を継続できるよう、地域包括ケアシステムの構築と医療・介護連携を充実します。

【これまでの主な取り組みと成果】

◆基幹型地域包括支援センターを基軸とした地域包括ケア体制の整備

⇒H27年度に基幹型地域包括支援センターを設置し、民間地域包括支援センターの統括や運営に対する後方支援、連絡調整等を実施することで、各地域包括支援センター業務の効果的、効率的な運営が進んだ。

《基幹型地域包括支援センター数：0カ所→1カ所》

◆元気高齢者社会参加システムの推進

⇒アクティブ・シニア応援窓口での就労支援や地域活動へのマッチングを行い、高齢者の社会進出・参加の促進が図られた。

《マッチング件数(H27-R1)：956件(うち、就労508件)、登録者数：1,049名(うち、就労805名)》

◆在宅療養相談室の運営

⇒H29年度に在宅療養相談室を設置し、在宅での生活を希望する医療と介護の両方が必要な高齢者やその家族等に対し、必要に応じた機関やサービスへ繋ぐことができる体制の構築ができた。

《在宅療養相談室数：0カ所→1カ所》

KPI		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
基幹型地域包括支援センター数	目標値	1カ所設置	-----	-----	-----	-----▶
	実績値	1カ所設置	-----	-----	-----	-----▶
	達成状況	○	○	○	○	○
民間地域包括支援センター数	目標値	—	1カ所増設	-----	-----	-----▶
	実績値	—	—	1カ所増設	-----	-----▶
	達成状況	—	—	○	○	○
在宅療養相談室数	目標値	—	—	1カ所設置	-----	-----▶
	実績値	—	—	1カ所設置	-----	-----▶
	達成状況	—	—	○	○	○
後期高齢者の介護認定率	目標値	25.3% 未満	25.36% 未満	25.42% 未満	25.48% 未満	25.54% 未満
	実績値	25.04%	25.25%	24.30%	24.42%	25.01%
	達成状況	○	○	○	○	○

市による一次評価

総合分析 (平成27年～ 令和元年)	<p>(評価結果) 順調に成果につなげることができた。</p> <p>基幹型地域包括支援センター、民間地域包括支援センター、在宅療養相談室の設置が完了し、地域包括ケアシステムの構築と医療・介護連携の充実が進みました。</p> <p>アクティブ・シニア応援窓口において、非常に多くの登録、マッチング実績が出ており、自分らしい生活・活躍ができるための環境整備が進みました。(KPIは基本目標2 戦略目標③に掲載)</p>
--------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

効果検証委員会による二次評価

<ul style="list-style-type: none">・介護認定率のKPIについては、適切な進行管理や成果を計れる指標となっているか、再考する必要がある。・元気高齢者の社会参加促進事業は、綾瀬は住みやすさ、人柄、地域柄の特長を生かした良い事業であり、多くの方が利用していることから評価したい。・体系的に書かれている地域包括ケアシステムの取り組みに加えて、様々な視点から高齢者の方が気軽に活動できるような環境を作り、健康度の向上等、総合的に進めていただきたい。

戦略目標② 生き生きと暮らすための健康寿命の延伸(ヘルスケア)

【基本的な方向】

○誰もがいつまでも生き生きと元気に暮らせるまちを目指し、「健康度見える化」等の推進により、市民一人一人が自らの健康づくりに関心を持ちライフスタイルを見直せるような、健康寿命の延伸に向けた総合的な取り組みを展開します。

【これまでの主な取り組みと成果】

◆健康寿命延伸プログラム

⇒がん検診未受診者に対し受診勧奨を行うとともに、各種事業に合わせて健康度見える化コーナーを活用し、市民一人一人の健康寿命の延伸が図られた。

≪健康度見える化コーナー利用者数：20,027人(H27-R1)≫

⇒健康ウォーキングポイント事業により、歩数計で日々の歩数・活動量・消費カロリーなどを管理し、運動を始めるきっかけづくりを進め、市民の運動の習慣化が図られた。

≪健康ウォーキングポイント参加者数：156人(R1)≫

KPI		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
がん検診受診率	目標値	12.6%	14.5%	16.3%	17.0%	20.0%
	実績値	11.1%	11.7%	15.8%	15.8%	15.2%
	達成状況	×	×	×	×	×
健康度見える化コーナーの設置及び利用者数	目標値	設置	5,000人	10,000人	15,000人	20,000人
	実績値	設置	5,683人	10,655人	15,451人	20,027人
	達成状況	○	○	○	○	○

市による一次評価

総合分析 (平成27年～ 令和元年)	(評価結果) 概ね成果につなげることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 健康度見える化コーナーの設置や健康ウォーキングポイント事業など、市民一人一人が自らの健康づくりに関心を持ち、ライフスタイルを見直すことにつなげる新たな取り組みを積極的に実施してきました。 がん検診や特定健診の受診率向上に努めるとともに、働き盛り世代等の無関心層へのアプローチを強化していく必要があります。

効果検証委員会による二次評価

- ・がん検診受診率のKPIについては、綾瀬市全体の健康度を適切に計れる指標となっておらず、再考が必要である。
- ・健康度見える化コーナーの拡充を進めていただきたい。制約があることは承知しているが、保健福祉プラザ以外でも活用できるような体制・環境づくりを検討いただきたい。

戦略目標③ 人口減少を踏まえた既存ストックのマネジメント強化

【基本的な方向】

- 将来のまちの在り方を見据え、長期的な公共施設等総合管理計画を示し、公共施設の効率的な維持管理を行います。
- 人口減少により増加が見込まれる空き家等の実情を把握し、その対応策を検討します。

【これまでの主な取り組みと成果】

◆公共施設等総合管理計画の策定・推進

⇒H27年度に公共施設マネジメント基本方針を策定し、公共施設マネジメントの取り組みの推進が図られた。同方針の行動計画となる公共施設再編計画をR2年度に策定し、今後、施設再編を推進していく。

◆空き家対策の推進

⇒実態調査及び計画策定とともに、所有者等への空き家情報冊子配付による啓発や、協定に基づく空き家相談会の開催等により、不動産市場への流通促進や空き家対策の推進体制の整備が進んだ。

KPI		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
公共施設マネジメント基本方針の策定	目標値	策定	-----	-----	-----	-----▶
	実績値	策定	-----	-----	-----	-----▶
	達成状況	○	○	○	○	○
公共施設適正配置アクションプランの策定	目標値	—	—	検討	策定	-----▶
	実績値	—	—	検討	検討	策定(R2)
	達成状況	—	—	○	△	○
空き家実態調査の実施	目標値	—	調査実態	-----	-----	-----▶
	実績値	—	調査実態	-----	-----	-----▶
	達成状況	—	○	○	○	○
空き家等対策計画の策定	目標値	—	—	策定	-----	-----▶
	実績値	—	—	策定	-----	-----▶
	達成状況	—	—	○	○	○

市による一次評価

総合分析 (平成27年～ 令和元年)	(評価結果) 概ね成果につなげることができた。 公共施設マネジメントについては、基本方針、アクションプランの策定が完了し、今後の具体的な再編、効率的な維持管理に向けた体制・方向性の整理ができました。 空き家対策については、実態調査、計画策定が完了し、対応の方向性の整理ができました。
--------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

効果検証委員会による二次評価

- ・ 公共施設マネジメント、空き家対策の取り組みは、計画策定後、いかに実現を進めていくかが肝要である。着実な推進を図られたい。
- ・ 空き家は今後非常に増えることが見込まれる。地権者等としっかりと話し合いながら解消を進められる体制づくりを構築されたい。
- ・ 学校施設の多目的利用（空き教室の自治会・コミュニティ施設としての活用等）について、積極的に検討されたい。

戦略目標④ 公共交通の将来ビジョン

【基本的な方向】

○人口減少や少子高齢化に対応したまちづくりの一環として、最寄りの鉄道駅や東名高速道路綾瀬バス停へのアクセス性の改善に取り組むことで、市民の移動利便性の向上を図り、人口の流出を抑制するとともに、高齢になっても住みやすい交通環境の確保を目指します。

【これまでの主な取り組みと成果】

◆公共交通の将来ビジョンに向けた取り組み

⇒綾瀬SIC周辺にパーク&バスライド用駐車場等の整備用地を綾瀬市土地開発公社から用地買収が完了し、東名高速道路綾瀬バス停の利便性向上に向けた環境整備が進んだ。

KPI		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
高速バス乗換拠点の整備	目標値	検討	調整	設計用地買収	設備	-----▶
	実績値	検討	調整	基本構想	用地買収	運営方法決定
	達成状況	○	○	△	△	×
新規1路線の試験運行実施（市役所～渋谷駅）	目標値	—	—	—	試験運行	本格運行
	実績値	—	—	—	調整	調整
	達成状況	—	—	—	×	×
既存1路線の延伸試験運行実施（長坂上～市役所）	目標値	—	—	—	試験運行	本格運行
	実績値	—	—	—	調整	調整
	達成状況	—	—	—	×	×

市による一次評価

総合分析 (平成27年～ 令和元年)	(評価結果)さらなる取り組み又は改善が必要。
	<p>高速バス乗換拠点の整備については、令和3年度設置の目処が立っていますが、スケジュールとしては遅れが出ています。</p> <p>路線バスの新規路線、既存路線の延伸については、事業者との調整が折り合っていないが、人口減少・超高齢化社会や新型コロナウイルスの影響など、社会情勢の変化も踏まえながら、引き続き利便性向上に向けた取り組みが必要です。</p>

効果検証委員会による二次評価

- ・市内には、バスの乗り換えをしないと駅や市役所に行けない不便な地域があり、近隣に何かしらのバス路線が通っていれば良しとせず、市内交通の在り方をしっかりと考えていただきたい。
- ・運転免許証の自主返納時、コミュニティバス無料乗車回数券を配っている取り組みについて、コミュニティバスが通っていない地域の住民への対応を検討されたい。
- ・交通施策は長期の取り組みが必要であり、新しい総合計画の戦略プロジェクトにおいても、引き続き着実に推進されたい。